

平成 20 年度老人保健健康増進等事業報告書

自治体における認知症地域支援体制構築の
効果的な推進に関する研究事業

報告書

平成 21 年 3 月

社会福祉法人 浴風会
認知症介護研究・研修東京センター

目 次

I. 本研究事業のダイジェスト

1. 研究概要・内容方法・主な結果・結論・提言
2. 認知症地域支援体制づくりの将来ビジョンと推進ロードマップ
3. 事業の取り組んだ人たちの声

II. 事業概要	1
1. 目的	3
2. 本研究事業の背景とめざすもの	4
3. 委員会の設置	6
4. 事業対象	7
5. 事業内容	12
6. 事業スケジュール	14
III. 事業内容と結果	15
1. 合同セミナーの開催と有効性の検証：体制づくりにむけた系統的支援策 の開発	17
2. モデル事業の成果と課題の集約	30
3. 全国の成果物を集約したアーカイブスの基礎作り	67
＜参考例①＞ 藤井寺市(大阪府)	69
＜参考例②＞ 栃木県(真岡市・塩谷町)	82
＜参考例③＞ 山鹿市(熊本県)	100
IV. 事業のまとめ	121
1. 事業の結論	123
2. 提言	124
3. 認知症地域支援体制づくりの将来ビジョンと推進ロードマップ	125
V. 資料	127
1. 各種調査・アンケートシート	129
2. 合同セミナーワークシート	170
3. モデル地域の取り組み成果例(収集・集積の一部)	203

IV. 事業のまとめ

1. 事業の結論

<1. 短期・集中的な取り組みの有効性>

自治体の規模によらず、自治体が主体的・計画的に認知症地域支援体制づくりに取り組むことで、体制構築が短期間（1～2年）で飛躍的に進展することが確認された。

<2. 期間を適切に設定しながら、効率的・継続的な推進を>

モデル地域の体制づくりは、1年目に比べて2年目に大きく進展したが、総合的な展開や継続性を確保するための基盤固めや多様な成果を生み出すためには、3年単位の事業期間幅が必要・適切と考えられた。

<3. 基盤固めの重要性>

単発の事業項目への取り組みを急がずに、地域支援の基盤固め（本人本位の視点の共有、ビジョンづくり、実態把握、推進コアチームづくり・コーディネーターの確保・支援等）を確実に行うことで、事業の総合的な進展と継続性、波及効果をうみだすことが確認された。

<4. 眠れる地域資源の最大限の活性化>

モデル事業を通じて、過疎地から都会地まで地元ですでにあった資源が「発見」されたり、活躍し始める契機となり、それらがネットワーク作りや地域支援に威力を発揮した。

<5. 地域支援と個別支援の連動の重要性>

地域支援体制づくりと個別支援チームづくりを連動させることで、相乗効果が生まれ、認知症対策の成果が拡大した。共通ツール（センター方式を）自治体が導入すると、相乗効果や成果がより大きいことが確認された。

<6. 進捗状況の自治体較差とその背景>

体制づくりの進捗状況には、自治体較差があることが確認された。

その主な背景として、以下の4点がみられた。

- ① 全国の動向や先進例に関する情報量の較差。
- ② 認知症地域支援の重要性についての自治体の認識や、事業の位置づけの較差。
- ③ 認知症地域支援体制づくりを着実・効率的に推進していくための、自治体（都道府県、市区町村）における事業マネジメント（企画・運営・モニタリング）の較差。
- ④ 地域特有の組織上の壁の有無。
例えば、専門職種間、医師会、警察、学校など。

<7. 自治体・地域の取組みのバックアップの重要性>

地域や自治体の現状を把握しつつ、セミナーや情報提供等を通じて系統的にバックアップすることは、体制づくりの進捗や成果の創出に有効であった。

2. 提 言

1. 全自治体の早急な着手の推進

都道府県は、管内市区町村に対して、「本人本位の視点に立った認知症地域支援体制づくりが認知症対策を一体的・効率的に進めていく上で有効であること」を周知し、全自治体が体制づくりに早急に着手するよう、計画的な推進が求められる。

<例> ①2011 年までに、管内全自治体が着手し始めることを目標とする。

②全自治体は、第 5 期計画に、認知症地域支援体制づくりを具体的に盛り込む。等

2. 円滑かつ実効性の高い体制づくりの推進

都道府県は、管内の自治体ができるだけ効率的に体制づくりを進めていけるよう、管内及び全国のモデル地域の取組みや成果に関する情報・人材等を最大限に活かすことが求められる。

3. 既存資源を活かして、できることから地域で着手を

市区町村は、体制づくりの基盤固めを急ぎ、地域の既存資源を最大限に活かして、可能な点から体制づくりを進め、地域支援と個別支援が結びついた実質的な成果を生みだしていくことが求められる。

4. 事業マネジメントの普及と推進を

認知症地域支援体制づくりを効率的・継続的に進めていくための事業マネジメントの発想としくみを導入し、国レベル・都道府県レベル・市区町村レベルで重層的・一貫的な事業マネジメント（企画・運営・モニタリング）を行っていくことが求められる。

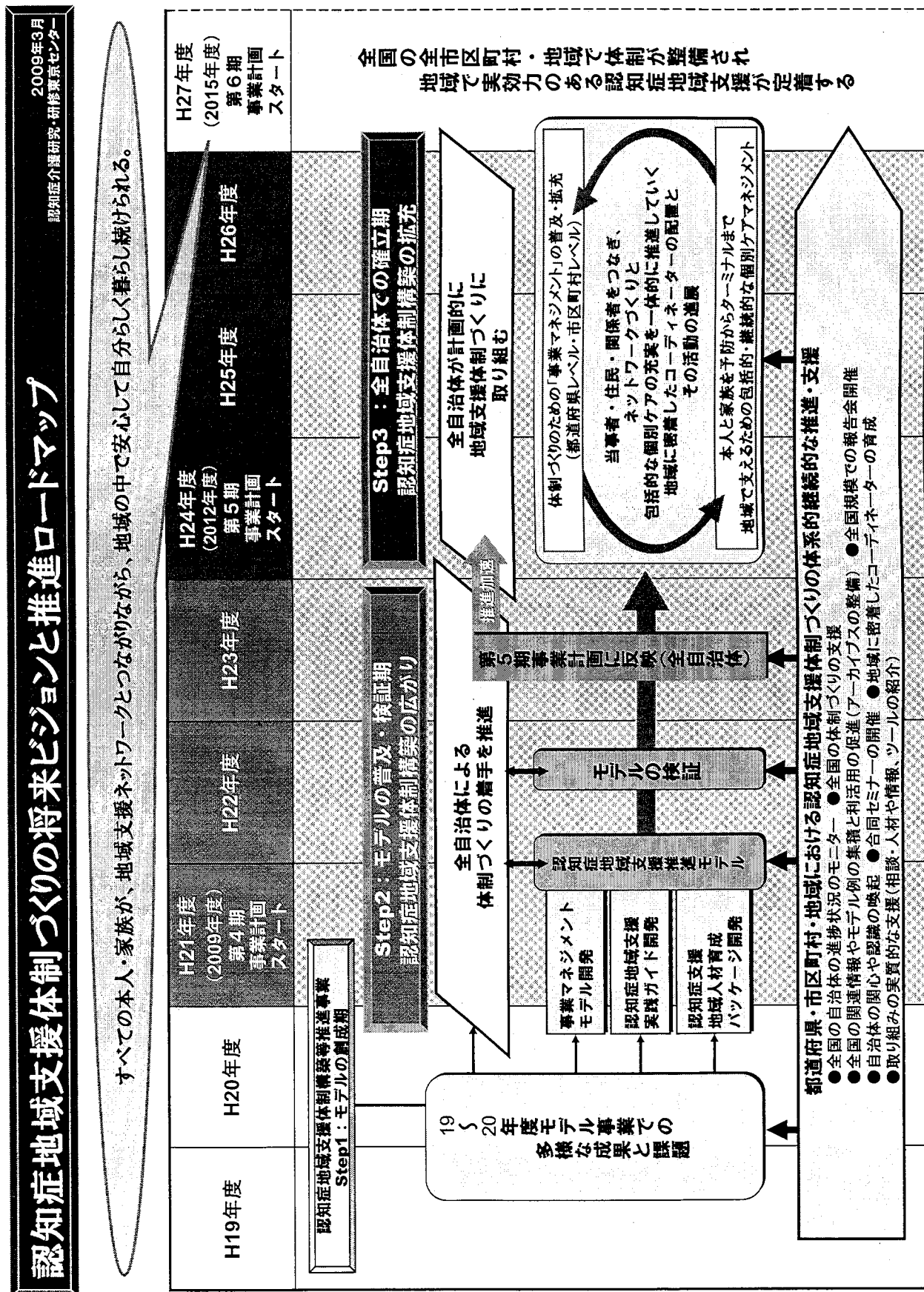
5. 全自治体が認知症地域支援体制づくりに積極的・継続的に取り組むことを総合的に推進する拠点づくりを

全国の自治体の進捗状況のモニター、全国の関連情報やモデル例の集積と利活用の促進（アーカイブスの整備）、自治体の関心や認識の喚起、合同セミナーの開催、地域に密着したコーディネーターの育成、取り組みの実質的な支援（相談、人材や情報・グッズ・ツールの紹介）等を体系的・継続的に担う拠点を時限的に設け、短期・中期的に自治体の取組みを推進していくことで事業の成果及び波及効果を最大限に生み出すことが求められる。

6. 多様な資源の地域支援への参画の推進を

福祉・保健・医療・行政関係者はもちろん、自治体首長や住民や当事者団体、多様な生活関連領域の組織や人に対し、モデル事業の成果を広報・周知し、地元での認知症地域支援体制づくりへの理解と協力・参画を促進していくことが求められる。

3. 認知症地域支援体制づくりの将来ビジョンと推進ロードマップ



V. 資 料

1. 各種調査・アンケートシート

<平成 19 年度 第 1 回分>

わが町紹介

都道府県		市区町村名		
人口		認知症の人数		
高齢者数		認知症の人数の把握方法 ※該当番号に○	() 1.認知症高齢者日常生活自立度Ⅰ以上 () 2.認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上 () 3.その他()	
全世帯数		地域包括支援センター数	運営()・委託()	
1人暮らし高齢者世帯 (高齢者世帯中の割合)		コーディネーター (候補含む)	()人	立場 ・ ・ ・

- わが町の全般的な特徴

- わが町の認知症対策の特徴（これまでの取り組み経過、独自事業など）

- 認知症対策に関してわが町で課題となっていること、困っていること、悩んでいること

- 今回の事業について
- 1) モデル地域となった経緯

- 2) 事業への期待・抱負

- 3) 事業を行う上で課題となっていること

<平成 19 年度 第 2 回分 都道府県経過シート 2>

H19第2回【経過 都道府県】認知症地域支援体制づくりの経過シート

1

Q1.推進会議の構成員を設置した経緯についてお聞かせください。

1)～5)の内容についてそれぞれご記入ください。

1)構成員の立場(※欄が足りない場合は増やしてご記入ください。名簿の添付でも結構です。)

No	立場	No	立場
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	
5		10	
		計	()人

2)構成員の選定方針

3)構成員の具体的な役割

4)構成員を活かすための今後の企画

5)会議は公開か、非公開か、どちらか1つに○を付けてください。

☐ 公開
 ☐ 非公開

Q2.貴都道府県で、本事業を主に推進している担当者の人数、部署名をご記入ください。
(※欄が足りない場合は増やしてご記入ください。)

No	部署名	No	部署名
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	
5		10	
		計	()人

認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室

＜平成 19 年度 第 2 回分 都道府県経過シート 3＞

H19第2回【経過_都道府県】認知症地域支援体制づくりの経過シート

2

Q3.事業を担当する上で、担当者自身のお考えをお聞かせください。

1)本事業への期待

--

2)事業を進める上での悩み、不安

--

3)事業を進めながら認知症地域支援体制づくりの推進について気づいたこと、アイデア等

--

Q4. 今回の事業と関連付けて展開している、あるいはしようとしている他の認知症関連の事業がありますか？
どちらか一つに○をつけてください。

--

ある ※事業の具体的な内容をご記入ください。

--

--

ない

Q5. 第2回セミナーへの要望をお聞かせください。

--

Q6. 今年度末まで(3月まで)の事業計画、スケジュールおよび組織図について最新のものをお送りください。
※お手数ですが、それぞれ一部をコピーしてお送りください。メールでの添付でも結構です。

ご協力ありがとうございました。
認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室

<平成 19 年度 第 2 回分 モデル地域経過シート 2>

H19第2回【経過モデル地域】認知症地域支援体制づくりの経過シート

1

Q1.コーディネーターを配置した経緯についてお聞かせください。

1)～5)の内容についてそれぞれご記入ください。

1)コーディネーターの人数、立場(※欄が足りない場合は増やしてご記入ください。)

No	立場	No	立場
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	
5		10	
		計 ()人	

2)コーディネーターを選定した方針・考え方

3)選定や依頼にあたって配慮したこと

4)コーディネーターの具体的な役割

5)コーディネーターを活かすために工夫している点

認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室

<平成 19 年度 第 2 回分 モデル地域経過シート 3>

H19第2回【経過モデル地域】認知症地域支援体制づくりの経過シート

2

Q2. 今回の事業を推進しているコアチームについてお聞かせください。

※コアチームとはコーディネート委員会そのものではなく、事業の実質を運営・推進しているメンバー（行政担当者含む）です。（欄が足りない場合は増やしてご記入ください。）

	コアメンバーの立場	主に担っている役割
1		
2		
3		
4		
5		
計（ ）人		

Q3. 事業を担当する上で、担当者自身のお考えをお聞かせください。

1) 本事業への期待

2) 事業を進める上での悩み、不安

3) 事業を進めながら認知症地域支援体制づくりの推進について気づいたこと、アイデア等

<平成 19 年度 第 2 回分 モデル地域経過シート 4>

H19第2回【経過モデル地域】認知症地域支援体制づくりの経過シート

3

Q4.モデル地域の実態把握の状況

1)モデル地域の基本データ

No	項目	データ	把握時点
1	人口		H 年 月 現在
2	高齢者数		H 年 月 現在
3	高齢化率		H 年 月 現在
4	全世帯数		H 年 月 現在
5	高齢者世帯数		H 年 月 現在
6	全世帯に占める高齢者世帯の割合		H 年 月 現在
7	一人暮らし高齢者世帯数		H 年 月 現在
8	高齢者世帯に占める一人暮らし高齢者世帯の割合		H 年 月 現在
9	認知症の人の人数		H 年 月 現在
10	高齢者に占める認知症の人の割合		H 年 月 現在

2)認知症の人の把握方法で①～⑦のうち、該当するものすべてに○を付けてください。

- ☐ ①要介護認定調査結果「傷病名より集計」
- ☐ ②要介護認定調査結果「認知症高齢者日常生活自立度Ⅰ以上を集計」
- ☐ ③要介護認定調査結果「認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上を集計」
- ☐ ④要介護認定調査結果「認知症高齢者日常生活自立度Ⅲ以上を集計」
- ☐ ⑤在宅介護支援センター、地域包括支援センター等の実態把握を活用
→具体的に
- ☐ ⑥認知症の出現率を利用
→具体的に
- ☐ ⑦その他
→具体的に

3)実態把握にあたり、工夫や配慮したこと

4)実態把握をする上での課題

<平成 19 年度 第 2 回分 モデル地域経過シート 5>

H19第2回【経過_モデル地域】認知症地域支援体制づくりの経過シート

4

Q5.事業の企画や実施のためにヒヤリングしたり、意見を求めた組織・団体等で該当するものすべてに○を付けてください(点検欄)。また※の付いている項目は具体的な内容をご記入ください。

区分	点検	項目	具体的な内容
行政機関		1.行政の他部門 ※右欄に部署名をご記入ください。	
		2.社会福祉事務所	
		3.保健所	
		4.保健センター	
		5.地域包括支援センター(モデル地域内)	
		6.地域包括支援センター(モデル地域外)	
		7.その他※	
警察・消防		8.警察署	
		9.消防署	
		10.その他※	
組織・団体		11.家族の会等	
		12.社会福祉協議会	
		13.シルバー人材センター	
		14.ボランティア組織	
		15.医師会	
		16.介護事業者連絡会等	
		17.法律関係者	
		18.その他※	
医療機関		19.開業医	
		20.認知症専門医	
		21.認知症サポート医	
		22.一般病院	
		23.精神病院	
		24.その他※	
地域		25.民生委員	
		26.自治会長	
		27.公民館	
		28.住民	
		29.その他※	
その他			

認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室

<平成 19 年度 第 2 回分 モデル地域経過シート 6>

H19第2回【経過・モデル地域】認知症地域支援体制づくりの経過シート

5

Q6.事業実施にあたり、市区町村として大事にしてきたこと、特徴等をお聞かせください。

Q7.今回のモデル事業と関連付けて展開している、あるいはしようとしている他の事業がありますか？

☐ ある ※事業の具体的な内容をご記入ください。

☐ ない

Q8.第2回合同セミナーへの要望をお聞かせください。

Q9.今年度末まで(3月まで)の事業計画、スケジュールおよび組織図について最新のものをお送りください。
※お手数ですが、それぞれ一部をコピーしてお送りください。メールでの添付でも結構です。

ご協力ありがとうございました。
認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室

<平成 19 年度 第 3 回分 都道府県経過シート 2>

H19第3回【経過_都道府県】認知症地域支援体制づくりの経過シート

※ご注意：①前回ご記入いただいた内容に変更がない項目への記入は不要です。
②今回初めてご記入される方はQ 1～2の項目すべてにご記入下さい。

Q1. 推進会議の構成員を設置した経緯についてお聞かせ下さい。

1)～5)の内容についてそれぞれご記入下さい。

1)構成員の立場(※欄が足りない場合は増やしてご記入下さい。名簿の添付でも結構です。)

No	立場	No	立場
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	
5		10	
		計 ()人	

2)構成員の選定方針

3)構成員の具体的な役割

4)構成員を活かすための今後の企画

5)会議は公開か、非公開か、どちらか1つに○を付けてください。

☐ 公開
 ☐ 非公開

Q2. 貴都道府県で、本事業を主に推進している担当者的人数、部署名をご記入下さい。

(※欄が足りない場合は増やしてご記入下さい。)

No	部署名	No	部署名
1		4	
2		5	
3		6	
		計 ()人	

認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室 0801

<平成 19 年度 第 3 回分 都道府県経過シート 3>

H19第3回【経過 都道府県】認知症地域支援体制づくりの経過シート

	項目	③この期間に新たに見えてきた課題	④情報を得たいこと
基盤づくり	①ビジョンづくり	ビジョンの検討	
		ビジョンの明示	
	②推進組織づくり ※厚労省の要請より	推進会議の設置・開催	
		モデル地域との打ち合わせ・調整	
		モデル地域の取り組み状況の把握と分析及び評価	
		管内市区町村への情報発信	
		コーディネーター等モデル地域における関係者の活動の支援	
		認知症対応型サービスの取り組み事例の分析及び評価	
		認知症対応型サービスの取り組み事例の普及	
		本事業の円滑な実施に関して必要な事項	
事例の普及	認知症対応型サービスの取り組み事例の普及 ※厚労省の要請より	モデル事例の収集	
		モデル事例の抽出	
		モデル事例の定期的な状況把握	
		収集事例の情報分析・評価・まとめ	
		管内の市町村及び事業所への情報提供	
本事業におけるその他			

<平成 19 年度 第 3 回分 モデル地域経過シート 2>

H19第3回【経過・モデル地域】認知症地域支援体制づくりの経過シート

1

※ご注意：①前回ご記入いただいた内容に変更がない項目への記入は不要です。
②今回初めて記入される方はQ 1～4 の項目すべてにご記入下さい。

Q1.コーディネーターを配置した経緯についてお聞かせ下さい。

1)～5)の内容についてそれぞれご記入下さい。

1)コーディネーターの人数、立場(※欄が足りない場合は増やしてご記入下さい。)

No	立場	No	立場
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	
5		10	
		計 ()人	

2)コーディネーターを選定した方針・考え方

3)選定や依頼にあたって配慮したこと

4)コーディネーターの具体的な役割

5)コーディネーターを活かすために工夫している点

<平成 19 年度 第 3 回分 モデル地域経過シート 3>

H19第3回【経過_モデル地域】認知症地域支援体制づくりの経過シート

2

Q2. 今回の事業を推進しているコアチームについてお聞かせ下さい。

※コアチームとはコーディネート委員会そのものではなく、事業の実質を運営・推進しているメンバー（行政担当者含む）です。（欄が足りない場合は増やしてご記入下さい。）

	コアメンバーの立場	主に担っている役割
1		
2		
3		
4		
5		
計	()人	

Q3. 事業実施にあたり、モデル地域の自治体として大事にしてきたこと、特徴等をお聞かせ下さい。

<平成 19 年度 第 3 回分 モデル地域経過シート 4>

H19第3回【経過モデル地域】認知症地域支援体制づくりの経過シート

3

Q4.モデル地域の実態把握の状況

1)モデル地域の基本データ

No	項目	データ	把握時点
1	人口		H 年 月 現在
2	高齢者数		H 年 月 現在
3	高齢化率		H 年 月 現在
4	全世帯数		H 年 月 現在
5	高齢者世帯数		H 年 月 現在
6	全世帯に占める高齢者世帯の割合		H 年 月 現在
7	一人暮らし高齢者世帯数		H 年 月 現在
8	高齢者世帯に占める一人暮らし高齢者世帯の割合		H 年 月 現在
9	認知症の人の人数		H 年 月 現在
10	高齢者に占める認知症の人の割合		H 年 月 現在

2)認知症の人の把握方法で①～⑦のうち、該当するものすべてに○を付けてください。

- ☐ ①要介護認定調査結果「傷病名より集計」
- ☐ ②要介護認定調査結果「認知症高齢者日常生活自立度Ⅰ以上を集計」
- ☐ ③要介護認定調査結果「認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上を集計」
- ☐ ④要介護認定調査結果「認知症高齢者日常生活自立度Ⅲ以上を集計」
- ☐ ⑤在宅介護支援センター、地域包括支援センター等の実態把握を活用
→具体的に
- ☐ ⑥認知症の出現率を利用
→具体的に
- ☐ ⑦その他
→具体的に

3)実態把握にあたり、工夫や配慮したこと

4)実態把握をする上での課題

ご協力ありがとうございました。

<平成 19 年度 第 3 回分 都道府県総括シート 1>

都道府県 認知症地域支援体制づくり初年度総括シート

平成 19 年度 総括

1. 計画通り進んでいる。3. 計画していない。4. 計画通りに進んでいない。5. 計画年度に行わず

記入日: 平成()年()月()日 修繕期満日:

記入者名(所属):

初年度のおおききをおよう!!

このシートは第3回合同ヒアリングにおいて、各地域との情報交換や報告に活用し、効果的な推進のために活用していただくためのガイド枠組みの参考としてお送りいたします。記入にぜひご協力下さい!!

※年度が経過するにつれて、19年度の情報としてお送りさせていただきます。

項目	①初年度の 取組の状況	②初年度、取組んだ成果	③初年度、取組んだ課題	④次年度に向けて
①認知症の現状	認知症の現状			
②認知症の現状	認知症の現状			
③認知症の現状	認知症の現状			
④認知症の現状	認知症の現状			
⑤認知症の現状	認知症の現状			
⑥認知症の現状	認知症の現状			
⑦認知症の現状	認知症の現状			
⑧認知症の現状	認知症の現状			
⑨認知症の現状	認知症の現状			
⑩認知症の現状	認知症の現状			
⑪認知症の現状	認知症の現状			
⑫認知症の現状	認知症の現状			
⑬認知症の現状	認知症の現状			
⑭認知症の現状	認知症の現状			
⑮認知症の現状	認知症の現状			
⑯認知症の現状	認知症の現状			
⑰認知症の現状	認知症の現状			
⑱認知症の現状	認知症の現状			
⑲認知症の現状	認知症の現状			
⑳認知症の現状	認知症の現状			
㉑認知症の現状	認知症の現状			
㉒認知症の現状	認知症の現状			
㉓認知症の現状	認知症の現状			
㉔認知症の現状	認知症の現状			
㉕認知症の現状	認知症の現状			
㉖認知症の現状	認知症の現状			
㉗認知症の現状	認知症の現状			
㉘認知症の現状	認知症の現状			
㉙認知症の現状	認知症の現状			
㉚認知症の現状	認知症の現状			
㉛認知症の現状	認知症の現状			
㉜認知症の現状	認知症の現状			
㉝認知症の現状	認知症の現状			
㉞認知症の現状	認知症の現状			
㉟認知症の現状	認知症の現状			
㊱認知症の現状	認知症の現状			
㊲認知症の現状	認知症の現状			
㊳認知症の現状	認知症の現状			
㊴認知症の現状	認知症の現状			
㊵認知症の現状	認知症の現状			
㊶認知症の現状	認知症の現状			
㊷認知症の現状	認知症の現状			
㊸認知症の現状	認知症の現状			
㊹認知症の現状	認知症の現状			
㊺認知症の現状	認知症の現状			
㊻認知症の現状	認知症の現状			
㊼認知症の現状	認知症の現状			
㊽認知症の現状	認知症の現状			
㊾認知症の現状	認知症の現状			
㊿認知症の現状	認知症の現状			

<平成 19 年度 第 3 回分 都道府県総括シート 2>

H19第3回【総括_都道府県】認知症地域支援体制づくり初年度総括

1

必ずご確認ください！

セミナーでの資料化の際に、ご記入いただいた内容(経過・総括)について都道府県名を明示してもよろしいですか？

☐ 可
☐ 否

Q1.初年度の取り組みを振り返り、事業担当者自身のお考えをお聞かせください。

1)事業の推進計画を作成する上で重要なポイントとして考えたこと

--

2)事業を推進していくために行ったモデル地域支援、工夫や配慮したこと

--

3)事業を進めながら管内自治体における認知症地域支援体制づくりについて重要であると思ったこと

--

4)次年度、事業を進めていく上での課題だと思っていること

--

＜平成 19 年度 第 3 回分 モデル地域総括シート 2＞

H19第3回【総括・モデル地域】認知症地域支援体制づくり初年度総括シート

1

必ずご確認ください！

セミナーでの資料化の際に、ご記入いただいた内容(経過・総括)について地域名を明示してもよろしいですか？

☐ 可
☐ 否

Q1. 地域資源マップの具体的な活用イメージについてお聞かせ下さい。

1) 対象(誰が活用するものとして考えられていますか)

2) 目的(何のために活用するものとして考えられていますか)

Q2. 今回の事業と関連付けて展開している、あるいはしようとしている他の認知症関連の事業がありますか？
どちらか1つに○を付け、「ある」場合は事業の具体的な内容をご記入下さい。

☐ ある ※事業の具体的な内容を下欄にご記入下さい。

☐ ない

<平成 19 年度 第 3 回分 モデル地域総括シート 3>

H19第3回【総括・モデル地域】認知症地域支援体制づくり初年度総括シート

2

Q3.事業の企画や実施のためにヒヤリングしたり、意見を求めたり連携した組織・団体等に○を付け、その他の場合は名称をご記入下さい。右欄にはそれぞれの具体的な内容をご記入下さい。

区分	点検	項目	具体的な内容
行政機関		1.行政の他部門(右欄に部署名をご記入下さい。)	
		2.社会福祉事務所	
		3.保健所	
		4.保健センター	
		5.地域包括支援センター(モデル地域内)	
		6.地域包括支援センター(モデル地域外)	
		7.その他()	
警察・消防		8.警察署	
		9.消防署	
		10.その他()	
組織・団体		11.家族の会等	
		12.社会福祉協議会	
		13.シルバー人材センター	
		14.ボランティア組織	
		15.医師会	
		16.介護事業者連絡会等	
		17.法律関係者	
		18.その他()	
医療機関		19.開業医	
		20.認知症専門医	
		21.認知症サポート医	
		22.一般病院	
		23.精神病院	
		24.その他()	
地域		25.民生委員	
		26.自治会長	
		27.公民館	
		28.住民	
		29.その他()	
その他		※福祉・介護分野以外の組織・団体等	
		30.その他()	
		31.その他()	
		32.その他()	
		33.その他()	
		34.その他()	

<平成 19 年度 第 3 回分 モデル地域総括シート 4>

H19第3回【総括_モデル地域】認知症地域支援体制づくり初年度総括シート

3

Q4.初年度の取り組みを振り返り、事業担当者自身のお考えをお聞かせ下さい。

1)事業の推進計画を作成する上で重要なポイントとして考えたこと

--

2)事業を推進していくために行ったモデル地域支援、工夫や配慮したこと

--

3)事業を進めながら地域の認知症地域支援体制づくりの推進について重要であると思ったこと

--

4)次年度、事業を進めていく上で課題だと思うこと

--

Q5.第3回セミナーへの要望をお聞かせ下さい。

1)最も情報交換をしたい項目は何ですか？下の番号から2つ選び、具体的な内容をご記入下さい。

- ①推進組織づくり ②実態把握 ③ネットワークづくり ④地域資源マップ ⑤認知症ケア等のサポート
⑥徘徊SOSネットワークの構築 ⑦もの忘れ相談の実施 ⑧認知症高齢者等のネットワーク支援
⑨見守りネットワーク ⑩センター方式を活かした事例検討会 ⑪本事業についての市民への広報 ⑫その他

No	具体的な内容

2)第3回セミナーへの要望をお聞かせ下さい。

--

ご協力ありがとうございました。

認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室 0801

＜平成 20 年度 第 1 回分 モデル事業経過調査シート（都道府県＆モデル地域）＞

FAX 03-3334-2156 ケアマネジメント推進室宛

モデル事業経過調査 *参加者全員にお願いします。各自が 1 枚ずつご記入下さい。

都道府県名又は モデル地域名	お名前
-------------------	-----

1. 昨年度の取り組みを行ったことで、「自地域では、ここが進んだ」「こんな（小さな）成果がでてきた」と思われる主な 3 点を、具体的にお聞かせ下さい。

◇

◇

◇

2. 取り組みを振り返り、事業推進のためには「この点が大切」と気づかれた点をお聞かせ下さい。

3. 今年度の事業として、ご自身として力を入れたい点をお聞かせ下さい。

4. 事業を進めていく上で、苦労している点、悩んでいる点、他の地域から情報やアドバイスが欲しい点等がありましたらお聞かせ下さい。

苦労している点
悩んでいる点
情報やアドバイスが欲しい点

5. その他、セミナーについて、東京センターへのご意見・要望等をお聞かせ下さい。

<平成 20 年度 第 1 回分 モデル地域経過シート 1>

認知症地域支援体制づくりの経過シート(モデル地域)

H20.6現在

1.取組んでいる
2.検討中
3.取組んでいない

項目		①取り組み状況 (1～3から当てはまる番号をご記入下さい。)
基盤づくり	①ビジョンづくり	
	ビジョンの検討	
	ビジョンの明示	
	②コーディネーターの選定・配置 →Q1(P1)もご記入ください。	
	③推進組織づくり	
	コアチームの結成 (事業を推進していく上で、 中心になって企画したり、運営しているメンバー) コーディネート委員会等	
	④実態把握	
	モデル地域の実態調査	
	関係者のヒヤリング等 →Q5(P4)もご記入ください。	
	⑤ネットワークづくり (他部門、他機関、地域等への協力の呼びかけ)	
各事業	地域資源マップ	
	認知症ケア等のサポート	
	徘徊SOSネットワークの構築	
	もの忘れ相談の実施	
	認知症高齢者等のネットワーク支援	
	見守りネットワーク	
	センター方式を活かした事例検討会	
	本事業についての市民への広報	
本事業の取組 りお ける		

認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室

<平成 20 年度 第 1 回分 モデル地域経過シート 2>

H20第1回【経過_モデル地域】認知症地域支援体制づくり経過シート

1

Q1.コーディネーターを配置した経緯についてお聞かせください。

1)～5)の内容についてそれぞれご記入ください。

1)コーディネーターの人数、立場(※欄が足りない場合は増やしてご記入ください。)

No	立場	No	立場
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	
5		10	
		計	()人

2)コーディネーターを選定した方針・考え方

3)選定や依頼にあたって配慮したこと

4)コーディネーターの具体的な役割

5)コーディネーターを活かすために工夫している点

<平成 20 年度 第 1 回分 モデル地域経過シート 3>

H20第1回【経過モデル地域】認知症地域支援体制づくり経過シート

2

Q2. 今回の事業を推進しているコアチームについてお聞かせください。

※コアチームとはコーディネート委員会そのものではなく、事業の実質を運営・推進しているメンバー（行政担当者含む）です。（欄が足りない場合は増やしてご記入ください。）

	コアメンバーの立場	主に担っている役割
1		
2		
3		
4		
5		
計	()人	

Q3. 事業を担当する上で、担当者自身のお考えをお聞かせください。

1) 本事業への期待

2) 事業を進める上での悩み、不安

3) 事業を進めながら認知症地域支援体制づくりの推進について気づいたこと、アイデア等

<平成 20 年度 第 1 回分 モデル地域経過シート 4>

H20第1回【経過_モデル地域】認知症地域支援体制づくり経過シート

3

Q4.モデル地域の実態把握の状況

1)モデル地域の基本データ

No	項目	データ	把握時点
1	人口		H 年 月 現在
2	高齢者数		H 年 月 現在
3	高齢化率		H 年 月 現在
4	全世帯数		H 年 月 現在
5	高齢者世帯数		H 年 月 現在
6	全世帯に占める高齢者世帯の割合		H 年 月 現在
7	一人暮らし高齢者世帯数		H 年 月 現在
8	高齢者世帯に占める一人暮らし高齢者世帯の割合		H 年 月 現在
9	認知症の人の人数		H 年 月 現在
10	高齢者に占める認知症の人の割合		H 年 月 現在

2)認知症の人の把握方法で①～⑦のうち、該当するものすべてに○を付けてください。

- ☐ ①要介護認定調査結果「傷病名より集計」
- ☐ ②要介護認定調査結果「認知症高齢者日常生活自立度Ⅰ以上を集計」
- ☐ ③要介護認定調査結果「認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上を集計」
- ☐ ④要介護認定調査結果「認知症高齢者日常生活自立度Ⅲ以上を集計」
- ☐ ⑤在宅介護支援センター、地域包括支援センター等の実態把握を活用
→具体的に
- ☐ ⑥認知症の出現率を利用
→具体的に
- ☐ ⑦その他
→具体的に

3)実態把握にあたり、工夫や配慮したこと

4)実態把握をする上での課題

<平成 20 年度 第 1 回分 モデル地域経過シート 5>

H20第1回【経過モデル地域】認知症地域支援体制づくり経過シート

5

Q5.事業実施にあたり、市区町村として大事にしてきたこと、特徴等をお聞かせください。

Q6. 今回のモデル事業と関連付けて展開している、あるいはしようとしている他の事業がありますか？

☐ ある ※事業の具体的な内容をご記入ください。

☐ ない

Q7.合同セミナーへの要望をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。
認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室

<平成 20 年度 第 2 回分 都道府県経過シート 2>

H20第2回【経過・都道府県】認知症地域支援体制づくりの経過シート

※ご注意：①前回ご記入いただいた内容に変更がない項目への記入は不要です。
②今回初めてご記入される方はQ 1～2の項目すべてにご記入下さい。

Q1.推進会議の構成員を設置した経緯についてお聞かせ下さい。

1)～5)の内容についてそれぞれご記入下さい。

1)構成員の立場(※欄が足りない場合は増やしてご記入下さい。名簿の添付でも結構です。)

No	立場	No	立場
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	
5		10	
		計 ()人	

2)構成員の選定方針

3)構成員の具体的な役割

4)構成員を活かすための今後の企画

5)会議は公開か、非公開か、どちらか1つに○を付けてください。

☐ 公開
 ☐ 非公開

Q2.貴都道府県で、本事業を主に推進している担当者の人数、部署名をご記入下さい。

(※欄が足りない場合は増やしてご記入下さい。)

No	部署名	No	部署名
1		4	
2		5	
3		6	
		計 ()人	

認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室_0809

<平成 20 年度 第 2 回分 モデル地域経過シート 2>

H20第2回【経過・モデル地域】認知症地域支援体制づくりの経過シート

1

※ご注意：①前回ご記入いただいた内容に変更がない項目への記入は不要です。
②今回初めて記入される方はQ 1～4 の項目すべてにご記入下さい。

Q1.コーディネーターを配置した経緯についてお聞かせ下さい。

1)～5)の内容についてそれぞれご記入下さい。

1)コーディネーターの人数、立場(※欄が足りない場合は増やしてご記入下さい。)

No	立場	No	立場
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	
5		10	
		計	()人

2)コーディネーターを選定した方針・考え方

3)選定や依頼にあたって配慮したこと

4)コーディネーターの具体的な役割

5)コーディネーターを活かすために工夫している点

<平成 20 年度 第 2 回分 モデル地域経過シート 3>

H20第2回【経過_モデル地域】認知症地域支援体制づくりの経過シート

2

Q2. 今回の事業を推進しているコアチームについてお聞かせ下さい。
※コアチームとはコーディネート委員会そのものではなく、事業の実質を運営・推進しているメンバー（行政担当者含む）です。（欄が足りない場合は増やしてご記入下さい。）

	コアメンバーの立場	主に担っている役割
1		
2		
3		
4		
5		
計	()人	

Q3. 事業実施にあたり、モデル地域の自治体として大事にしてきたこと、特徴等をお聞かせ下さい。

<平成 20 年度 第 2 回分 モデル地域経過シート 4>

H20第2回【経過・モデル地域】認知症地域支援体制づくりの経過シート

3

Q4.モデル地域の実態把握の状況

1)モデル地域の基本データ

No	項目	データ	把握時点
1	人口		H 年 月 現在
2	高齢者数		H 年 月 現在
3	高齢化率		H 年 月 現在
4	全世帯数		H 年 月 現在
5	高齢者世帯数		H 年 月 現在
6	全世帯に占める高齢者世帯の割合		H 年 月 現在
7	一人暮らし高齢者世帯数		H 年 月 現在
8	高齢者世帯に占める一人暮らし高齢者世帯の割合		H 年 月 現在
9	認知症の人の人数		H 年 月 現在
10	高齢者に占める認知症の人の割合		H 年 月 現在

2)認知症の人の把握方法で①～⑦のうち、該当するものすべてに○を付けてください。

- ☐ ①要介護認定調査結果「傷病名より集計」
- ☐ ②要介護認定調査結果「認知症高齢者日常生活自立度Ⅰ以上を集計」
- ☐ ③要介護認定調査結果「認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上を集計」
- ☐ ④要介護認定調査結果「認知症高齢者日常生活自立度Ⅲ以上を集計」
- ☐ ⑤在宅介護支援センター、地域包括支援センター等の実態把握を活用
→具体的に
- ☐ ⑥認知症の出現率を利用
→具体的に
- ☐ ⑦その他
→具体的に

3)実態把握にあたり、工夫や配慮したこと

4)実態把握をする上での課題

ご協力ありがとうございました。

＜平成 20 年度 第 3 回分 都道府県総括シート 2＞

H20第3回【総括・都道府県】認知症地域支援体制づくり総括シート 2

1

都道府県の事業担当者として今回の事業全体を振り返り、下記の項目についてご回答ください。

- 1) 事業を通じて、貴都道府県で認知症地域支援体制づくりが進展したと思いますか。
 - ①モデル地域を中心に都道府県下で地域支援体制づくりが進展している。
 - ②モデル地域では体制づくりが進展しているが、それ以外の地域での進展はこれから。
 - ③体制づくりが進展しないモデル地域があった。

- 2) 事業全体を通しての都道府県としての主な成果をご記入ください。

- 3) モデル地域での事業全体を通してみえてきた都道府県としての総合的な課題をご記入ください。

- 4) 市区町村での認知症地域支援体制づくりを推進していく上で、都道府県の役割として重要と思われた点をご記入ください。

- 5) 市区町村への普及・推進に向けた取組み(構想・計画・方策等)をご記入ください。

- 6) 今回の事業の成果や課題を基として、下記の計画の計画策定に活かした点がありますか。

- (1) 都道府県老人福祉計画 (ある ・ ない)

○具体的に記入ください。

- (2) 都道府県介護保険事業支援計画 (ある ・ ない)

○具体的に記入ください。

- (3) その他都道府県の事業計画等 (ある ・ ない)

○具体的に記入ください。

- 7) 都道府県として認知症支援体制構築を円滑に推進していくために必要な条件や支援等を具体的に記入ください。

ご協力ありがとうございました。

トシトシ生活シテ

平成20年西暦紀元

※すべてのモデル地域での記入をお願いします

[illegible]

＜平成 20 年度 第 3 回分 モデル地域総括シート 2＞

モデル地域 認知症地域支援体制づくり総括シート

実施主体が事業に取り組むべき事項	項目	①取り組み内容		③取り組みの成果（主に出されたもの、変化等）	④成果や課題の改善点（主に出されたもの、変化等）
		1. 事業の目的	2. 事業の目標		
認知症地域支援体制づくり	認知症支援に特化した地域支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				
事業に關する情報提供					
事業の成果	認知症支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				
	認知症支援体制の構築				

<平成 20 年度 第 3 回分 モデル地域総括シート 3>

H20第3回【総括：モデル地域】認知症地域支援体制づくり総括シート2

1

モデル地域の事業担当者として今回の事業全体を振り返り、下記の項目についてご回答ください。

1) 認知症地域支援体制づくりの取り組みを通じて、以下のようなアウトカムが生まれていますか。

- ① 地域支援の資源(人、場、モノ、情報、方法等)やそれらのつながりが増し、それらによって認知症の人と家族が支えられる実例が増えてきている。
- ② 地域支援の資源(人、場、モノ、情報、方法等)やそれらのつながりが増してきているが、それらによって認知症の人と家族が支えられる実例が増えているまでには至っていない。あるいは確認できていない。
- ③ 事業期間内では、地域支援の資源(人、場、モノ、情報、方法等)やそれらのつながりが増してきているまでには至っていない。あるいは確認できていない。

2) 事業全体を通じて、貴地域にとって重要だと考えられる主な成果をご記入ください。

3) 事業全体を通じて、認知症地域支援体制づくりを進める上で課題となった主な点をご記入ください。

4) 事業に取り組まれた経験上、今後、他の市区町村が認知症地域支援体制づくりに取り組む上で、特に「この点を大切にしてほしい」と考えられることをご記入ください。

5) 今回の事業の成果や課題を基として、下記の計画の計画策定に活かしている点がありますか。

(1) 高齢(老人)福祉計画 (ある ・ ない)

○具体的に記入ください。

(2) 介護保険事業計画 (ある ・ ない)

○具体的に記入ください。

(3) その他の事業計画等 (ある ・ ない)

○具体的に記入ください。

6) 市区町村として認知症支援体制構築を円滑に推進していくために必要な条件や支援等を具体的にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

2. 合同セミナーワークシート

<平成 19 年度 第 1 回分 1>

ワークシート1：本人の声、家族の声を聴く

070730モデル地域合同セミナー

都道府県名	市区町村名	氏名
メモ		感じたこと・考えたこと
(1) 本人の体験報告・提言より		
(2) ビデオ：本人と家族の声より		
(3) ビデオ：本人会議アピールより		
(話しあいメモ)		

認知症介護研究・研修東京センター

ワークシート2		都道府県名		市区町村名		氏名		'07 7月30日/モデル地域合同セミナー	
もし、自分が(わが町で)認知症になったら どんな体験をするだろうか？ よく、思い浮かべてみよう									
1) 自分の思い		3) 自分が求めていることが、今のわが町で果たされるか確認してみよう。 (1) 果たされるもの (2) 果たされないもの							
1)ー2 他の人の思いをきいてみよう									
2) 自分の求めていること(関わり、支え、環境、もの、他なんでも…)									
2)ー2 他の人が求めていることをきいてみよう									

ワークシート4 認知症支援体制構築に向けた各地の取り組み

2007.7.30
モデル地域合同セミナー

※このシートは各自のメモ用にお使いください。
最期に各地域で1枚だけ、ご提出ください（返知します）。

都道府県名：	市区町村/地域名：
--------	-----------

参加地域の「協議書・わか町紹介シート」・ワークシート3などを参照しながら情報交換を…。

自治体名 内 容	自治体1：	自治体2：	自治体3：	自治体4：
地域の概況				
認知症対策の特徴				
認知症支援で課題と なっている				
今回の事業への期待・ 抱負				
事業の概要 ～役割や工夫を中心に～ 推進体制 主な事業内容 実施方法 etc				
課題になっていること				
話し合いメモ				
各地域でのこれからの事業 で参考にして行きたい点、 活かして行きたい点				

<平成 19 年度 第 1 回分 5>

ワークシート5 認知症地域支援体制構築に向けた具体的ヒント

2007.7.31

モデル地域合同セミナー

※このシートは各自のメモ用にお使いください。

最期に各地域で1枚だけ、ご提出ください（返却します）。

都道府県名：

市区町村/地域名：

氏名：

※講師や参加者の話をききながらヒントをメモしよう。

	メ モ	今回の事業で活かしたい点
1) 自治体の役割		
2) 推進会議について		
3) コーディネーターについて		
4) 地域資源マップ		
5) ネットワーク構築について		
◎ 徘徊・SOSネット ワークについて		
その他		

認知症介後研究・研修東京センター

ワークシート6 支援体制の効率的な構築にむけて
共通ツールとしてセンター方式の活用

2007.7.31
モデル地域合同セミナー

※このシートは各自のメモ用にお使いください。
全員がご提出ください（返却します）。

都道府県名：	市区町村/地域名：	氏名：
--------	-----------	-----

★ 一つのツールが事業の一貫した推進に役立ちます。

事業での様々な活用方法	× モ	今回の事業で活かしたい点
推進会議で活かす ①共通の視点あわせに ②委員が情報発信や自身のネット ワークを事業に活かすために ③コーディネーター等の活動支援に ④取り組み事例の分析・評価に ⑤事業全体の成果の確認・実証に		
コーディネーターが活かす ⑥共通の視点・共通言語で活かした ネットワーク作りを ⑦認知症ケア等のサポートや 専門的助言を効率的に ⑧情報共有やケース検討や会 議を効率的に ⑨個別支援と資源マップ作成 を相互に充実させる ⑩コーディネーターの活躍の 成果を目に見える形で記録・ 実証するために		
地域資源マップの作成と活用のために ⑪関係者が資源を掘り起こす際の導入・ 教育ツールとして ⑫資源掘り起こしの共通ツール ・共通フォーマットとして ⑬資源マップを活かして、関係者が適 切なサービスにつなげていくために ⑭資源マップ作成後の活用成果を 実証するために		
徘徊SOSネットワークで活かす ⑮ネットワーク関係者の意識・ 理解・関わりの向上に活かす ⑯個別ケースの早期対応・発見・ フォローをしていくための共通 ツールとして活かす ⑰ネットワーク関係者を増やすために 活かす一見守りネットワークの充実		
医療との連携強化に活かす ⑱物忘れ相談の基本フォーマット として ⑲医療との効率的な情報共有 ⑳医療連携ケースの成果の実証		
支援体制の基盤の強化に活かす ☆1.地域包括の支援力向上に活かす ☆2.ケアマネの支援力向上に活かす ☆3.利用者本位のチーム力を高める ために地域の事業所の共通ツ ールとして活かす。 ☆4.地域密着型サービスの質を確保 し地域拠点作りに ☆5.家族の理解・介護力、プロとの協 働力を高めるために ☆6.サポーターの力量向上と活躍の場 を作るために ☆7.一般市民の具体的な理解を高める ために：市民の共通言語にして当 たり前水準をあげる		

＜市区町村／地域用＞ワークシート1 他地域の取り組みに学ぶ

2007.11.08 第2回モデル地域合同セミナー

※このシートは各自のメモ用にお使いください（返却いたします）。

記入者

市区町村/地域名

氏名

他地域の取り組み状況をメモしよう。

	市区町／地域名：	市区町／地域名：	市区町／地域名：	メモ
I・事業の基礎固め				
1)ビジョンづくり	(取り組み)			
2)実態把握 (1)調査 (2)ヒアリング	(課題)			
3)コア人材の確保・育成				
4)コアチーム・組織作り				
5)共通認識を持った多資 源人材の育成				
1)コーディネータの活動	(取り組み)			
(1)資源マップの作成への取組み				
(2)ネットワーク構築と推進のため の調整				
(3)地域包括支援センター等への認 知症に関する専門的な助言	(課題)			
(4)その他				
2)地域資源マップの作成	(取り組み)			
	(課題)			
3)地域支援体制推進	(取り組み)			
(1)認知症ケア等へのサポート				
①地域包括とコーディネーターとの 連携				
②地域資源マップの活用				
(2)徘徊SOSネットワーク構築				
①連絡網の整備				
②拠点の設置	(課題)			
③模擬訓練の実施				
(3)地域での創生工夫（例）				
①ちの忘れ相談				
②見守りネットワーク				
③センター方式を活用した事例検討 会)				
その他の取り組み				

II・事業の実施

認知症介護研究・研修東京センター

ワークシート2 わが地域の取り組みと課題の整理

2007.11.08 第2回モデル地域合同セミナー

※このシートは各自のメモ用にお使いください。全員がご提出ください（返却いたします）。

「他地域の取り組みに学ぶ」を参考に
自地域の取り組みを再点検しよう。

記入者	都道府県名	市区町村/地域名	氏名
-----	-------	----------	----

	取り組み状況の再点検 (事前の「経過シート」をもとに)	事業の推進に向けた現時点での課題	課題の解決に向けて今後必要なこと (※→セミナー2日目の「今後のアクションプランづくり」に書く)
I : 事業の基礎固め	1) ビジョンづくり 2) 実態把握 (1) 調査 (2) ヒアリング 3) コア人材の確保・育成 4) コアチーム・組織作り 5) 共通認識を持った多資源 人材の育成		
II : 事業の実施	1) コーディネータの活動 (1) 資源マップの作成への取り組み (2) ネットワーク構築と推進のための調整 (3) 地域包括支援センター等への認知 症に関する専門的な助言 (4) その他 2) 地域資源マップの作成 3) 地域支援体制推進 (1) 認知症ケア等へのサポート ①地域包括とコーディネーターとの連携 ②地域資源マップの活用 (2) 徘徊SOSネットワーク構築 ①連絡網の整備 ②拠点の設置 ③模擬訓練の実施 (3) 地域での創薬工夫 (例) ①ちの忘れ相談 ②見守りネットワーク ③センサー方式を活用した事例検討会		
その他の取り組み			

ワークシート 3-1（平成19年度）：今後の事業展開にむけたアクションプランとブラッシュアップ（他地域の情報を参考に）

2007.11.09
第2回モデル地域合同セミナー

※このシートは各自のメモ用にお使いください。
最後に各地域で1枚ご提出ください（返却します）。

都道府県名：市区町村/地域名：氏名：

19年度内事業について

事業内容	07/11月	12月	08/1月	2月	3月	他地域との情報交換で得られたヒント・アイデア
各月のポイント						
○基盤固め						
○体制作り						
コーディネーターの配置・活動						
地域資源マップの作成						
地域支援体制推進事業 ○コーディネーター等によるケアのサポート						
○徘徊SOSネットワークの構築						
○地域での創生工夫 ・物忘れ同断 ・見守りネットワーク ・センター方式を活用した事例検討会 他						
その他						

認知症介護研究・研修東京センター

ワークシート 3-2（平成20年度）：今後の事業展開にむけたアクションプランとブラッシュアップ（他地域の情報を参考に）

2007.11.09
第2回モデル地域合同セミナー

※このシートは各自のメモ用にお使いください。
最後に各地域で1枚ご提出ください（返却します）。

都道府県名：

市区町村/地域名：

氏名：

平成20年度内事業について

事業内容	08/ 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	09/ 1月	2月	3月	他地域との情報交換で得られたヒント・アイデア
各月のポイント													
○基盤固め													
○体制作り													
コーディネーターの配置・活動													
地域資源マップの作成													
地域支援体制推進事業 ○コーディネーター等によるケアのサポート													
○非営SOSネットワークの構築													
○地域での創意思工夫・物忘れ同断・見守りネットワーク・センサー方式を活用した事例検討会 他													
その他													

認知症介護研究・研修東京センター

<平成 19 年度 第 2 回分 4>

4. ポイント別事業の効果的な推進にむけて
※メモ：午後のワークにむけて

071109
第2回モデル地域合同セミナー

都道府県

市区町村名

氏名

	報告を聞いての参考メモ	今回の事業で活かしたい点
認知症地域支援の 基盤づくりと推進に向け て		
コーディネーターの確保 と活動展開に向けた計画 的な推進にむけて		
地域に根ざした地域資源 マップづくりと活用につ いて		
地域資源を活かした十個 性のある徘徊SOSネッ トワーク構築に向けて		

ワークシート1

2008年2月25日
第3回モデル地域合同セミナー

○取り組みで見えてきたポイント → 今後に向けた補強点の確認

	全体情報交換	わが地域の取組みの ふりかえり	補強点・手がかり
1)			
2)			
3)			
4)			

ワークシート2		モデル 地域名		2008年2月25日 第3回モデル地域合同セミナー	
〇わが地域の今後に向けた補強点と取り組み方					
	わが地域の取り組みのふりかえり	地域としての補強点	具体的なアクション案		
1)					
2)					
3)					
4)					

ワークシート3 具体的なアクションの手がかりを探る

2008.2.26 第3回モデル地域合同セミナー

※このシートは各自のメモ用にお使いください。全員がご提出ください（返却いたします）。

記入者

都道府県名

市区町村/地域名

氏名

自分がそのために
やっていること

今後やってみたいこと

実際にやっていく上での
課題

話し合いからの手がかり

1. 認知症地域支援の基盤の拡
充にむけて
1) ビジョンづくり
2) 実態把握
(1) 調査
(2) ヒヤリング
3) コア人材の確保・育成
4) コアチーム・組織作り
5) 共通認識を持った多資源人材
の育成
2. 資源マップ作りと活用推進
にむけて

3. コーディネーターの確保
と活動展開にむけて

4. 地域支援体制構築にむけ
た人材確保・育成と
ネットワークにむけて
～センタ－方式を活かした展開～
・研修
・事例検討
・モデル事例収集

その他

認知症予防研究・研修東京セブター

ワークシート4：今後の事業展開にむけたアクションプラン（叩き台）
※このシートは各自のメモ用にお使いください。最後に各地域で1枚がご提出ください（返却します）。

2008.2.26
第3回モデル地域合同セミナー

都道府県名：

市区町村/地域名：

氏名：

事業内容	08/ 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	09/ 1月	2月	3月	09/ 4月～
1. 認知症地域支援の基盤の 拡充にむけて 1) ビジョンづくり 2) 実態把握 (1) 調査 (2) ヒヤリング 3) コア人材の確保・育成 4) コアチーム・組織作り 5) 共通認識を持った多資源 人材の育成													
2. 資源マップ作りと 活用推進にむけて													
3. コーディネーターの 確保と活動展開に むけて													
4. センター方式の普及・ 活用													
5. 地域支援体制推進事業 ○コーディネーター等によるケ アのサポート ○徘徊SOSネットワークの構 築 ○地域での創意工夫 ・もの忘れ相談 ・見守りネットワーク その他													

認知症介護研究・研修東京センター

ワークシート1 自地域の進捗状況と今後のポイントの整理

2008.6.19 第1回モデル地域合同セミナー

※このシートは、都道府県・モデル地域で各1枚をご提出ください（返却いたします）。

記入者

都道府県名

市区町村/地域名

氏名

・自地域で努力したこと、プラス面を最大限掘り起こそう

・本人・家族の視点に立って、今、何が課題か検討しよう

	①進捗状況（大まかな確認を） 該当するいずれかに○印			②大切に したい点	③力を入れたい点（内容）	④課題となっている点（内容）あるいは 他地域から情報やアドバイスを欲しい点（内容）
	未着手	着手	成果 あり			
Ⅰ事業の基礎固め	1) ビジョンづくり					
	2) 実態把握					
	3) コア人材の確保・育成					
	4) コアチーム・組織作り					
	5) 共通認識を持った多様な人材の育成・ネットワーク					
Ⅱ事業本体の推進	1) コーディネーターの活動					
	2) 地域資源マップの作成 活用					
	3) 地域支援体制推進					
	(1) 認知症ケア等へのサポート					
	(2) 徘徊SOSネットワーク構築					
	(3) 地域での創意工夫（例）					
	①もの忘れ相談／医療との連携					
	②見守りネットワーク					
	③センサー方式を活用した事例検討会					
	その他の取組み					
都道府県によるモデル地域支援						
市区町村への情報配信						
取組み事例の普及						

認知症介護研究・研修東京センター

ワークシート3-1 事業の重点ポイント別徹底情報交換 1)～3)			
名前			
重点ポイント	全体での情報交換メモ	他地域との情報交換メモ	自地域に活かしたい点
1 事業推進の体制と方策について			
2 コーディネーターの活躍の推進について			
3 活きた資源アツクつくりの活用推進について			

2008.6.20
第1回モデル地域合同セミナー

ワークシート4：今後の事業展開にむけたアクションプラン（叩き台）
※このシートは各自のメモ用にお使いください。最後に各地域で1枚がご提出ください（返却します）。

都道府県名：

モデル地域名：

氏名：

来年度事業について

事業内容	08/ 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	09/ 1月	2月	3月	09/4月以降にむけて 今年度やってみたいこと
1. 認知症地域支援の基盤の 拡充にむけて 1) ビジョンづくり 2) 実態把握 (1) 調査 (2) ヒヤリング 3) コア人材の確保・育成 4) コアチーム・組織作り 5) 共通認識を持った多資源 人材の育成											
2. 資源マップ作りと 活用推進にむけて											
3. コーディネーターの 確保と活動展開に むけて											
4. センター方式の普及・ 活用											
5. 地域支援体制推進事業 ○コーディネーター等によるク アのサポート ○徘徊SOSネットワークの構 築 ○地域での創薬工夫 ・もの忘れ相談 ・見守りネットワーク											
都道府県として モデル地域の支援 管内に広げるための取組み 事例の収集と活用											

認知症対策推進部 認知症対策センター

<平成 20 年度 第 2 回分 1-1>

【ワークシート1-1】事業展開マップ

2008. 10. 2
第2回合同セミナー 第1日目

- 自地域での現在の取組みの全体像と主な関係者を関係図にしてみましょう。
(経過シートを参考に)
- ★事業項目の相互が、どうつながっているのか。
- ★本事業以外とのつながりは？
- ★本事業での取組みが、具体的な個別支援につながったことは？

都道府県名	
地域名	

 : 事業項目  : 予定項目  : 実施済み  : 関係者
 : 特に強いつながり  : つながり  : つなぎたい

個別支援

<モデル地域>

本事業以外の事業

管轄内の他エリアや市区町村等との
つながり・広がり

<都道府県>

＜平成 20 年度 第 2 回分 1-2（モデル地域用）＞

【ワークシート1-2】事業展開の課題整理				
●今年度事業後半にむけて、自地域の取組みでの課題を整理してみよう ★事業展開マップから見えたこと、他地域の報告から。				
第2回合同セミナー 第1日目				
地域名		モデル地域用 ※各モデル地域ごとに1枚ご記入ください。		
自地域の 事業項目や取組み	1)現在の事業及び取組みに対し、 あらためて気づいた点	2)現在の事業及び取組みに対し、 補完、充実したいこと	3)今後のより充実した体制づくりのために 新たに取組みたいこと	○具体的に知りたいこと
現在の事業及び取組みの 全体的なあり方や進め方に関して (各事業項目)				

<平成 20 年度 第 2 回分 2 (都道府県用) >

第2回合同セミナー 第2日目

都道府県用

記入者名

【ワークシート2】事業充実策の具体化

他地域から得た自地域へのヒント

まとめ

	自地域の充実に向けたアイデア			
推進会議の運営				
モデル地域への活動支援				
事業経過の把握・分析・評価				
モデル地域の取組み状況等管内の市区町村への情報発信				
認知症対応型サービスの取り組み事例普及				
その他独自の取組みについて				

第2回合同セミナー 第2日目

【ワークシート2】事業充実策の具体化

モデル地域用

地域名

記入者名

	自地域の充実に向けたアイデア	他地域から得た自地域へのヒント	まとめ
コーディネータの活動			
地域資源マップの作成・活用			
認知症ケア等へのサポート			
徘徊SOS ネットワーク構築			
地域での創意工夫 ・ものわずれ相談 ・見守りネットワーク ・センサー方式の活用			
その他 独自の事業や取組み			

地域支援体制推進

第2回合同セミナー 第2日目				
【ワークシート3】わが地域の今年度後半のアクションプラン				
都道府県	アクションプラン (何を、どのように、誰と一緒に、いつまでに)	モデル地域	地域名	記入者名
推進会議の 運営		コーディネータの 活動	アクションプラン (何を、どのように、誰と一緒に、いつまでに)	
モデル地域への 活動支援		地域資源マップの 作成・活用		
事業経過の 把握・分析・評価		認知症ケア等 への サポート		
モデル地域の 取組み状況等 管内市区町村への 情報発信		徘徊SOS ネットワーク 構築		
認知症対応型 サービスの 取組み 事例普及		地域での 創意工夫 ・ものわずれ相談 ・見守り ネットワーク ・センサー方式の 活用		
その他 独自の 事業や取組み		その他 独自の事業や 取組み		

【ワークシート1】 取組み成果マップ ◆総括シート（資料4）を活かして

●本事業の経過全体を振り返り、全体を通じて一つひとつの取組みの成果をマップにし、「取組み成果の全体像」を俯瞰してみよう。

平成20年度第3回合同セミナー 第1日目（2009年1月29日）

都道府県名	
記入者名	

都道府県用

★各都道府県ごとにシートを1枚ご提出願います。
シートはコピー後、返却いたします。

①都道府県としての取組み成果マップ

記入凡例

生み出されたものこと
（取組み・一次成果）

生み出すために
取組んだ事項・工夫

一次成果を活かして
生み出した有効な支援／体制
（累積成果）

波及効果

※関連性のある取組み成果を一（矢印）で結んでください。（特に強い関連は二重線で
※最も重要と考える箇所に★印をつけてください。

年月欄

事業スタート
年 月

（経過）

②事業を通じて確認された（あるいは、気づいた）都道府県の役割

＜事業の企画・運営・施策等に関して＞

＜モデル地域との関わりや支援のあり方に関して＞

③今回の成果として次年度以降へ引き継ぎ、継続していきたい点（引き継いで欲しい点）

気づきメモ：今後、管内での普及を推進していく上での課題（「ワーク2」の素材として）

<平成 20 年度 第 3 回分 1 (モデル地域用) >

【ワークシート1】 取り組み成果マップ ◆ 締結シート (資料4) を活かして
● 本事業の経過全体を振り返り、全体を通じて一つひとつの取り組みの成果を
マップにし、「取り組み成果の全体像」を俯瞰してみよう。

モデル地域用
本表で参加の地域の方は、地図位置を記載したシート
1枚もご提出願います。シートに1枚、記載いたします。

平成20年度第3回分同封おしー 第1回 (2009年1月29日)

モデル地域名	
記入者名	

①モデル地域としての取り組み成果マップ

記入月例

年月欄

事業スタート

年 月

②事業を通じて確認された (あるいは、気づいた) 自地域の強み (長所)

< 益益 大いに >

< 個々の事業に関して >

③ 自地域で次年度に続く 定着させていきたい取り組み成果	④ 他地域でも活かしてほしい取り組み成果
------------------------------	----------------------

気づきメモ: 今後、地域支援体制を築いていく上での課題 (「ワーク2」の素材として)

<平成 20 年度 第 3 回分 4 (ミニ報告メモ) >

【ミニ報告メモ】他道府県・他モデル地域の「事業の全体成果」を聴いて、今年度の総括や来年度の展開に活かそう

平成 20 年度第 3 回合同セミナー 2009 年 1 月 29・30 日

①取り組みの成果		②課題の整理と今後の展開		③他の地域に活かしていくために	
地域名		地域名		地域名	

認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室

3. モデル地域の実践成果（収集、集積の一部）

◆シンボルマーク

宇治市（京都府）



塩谷町（栃木県）



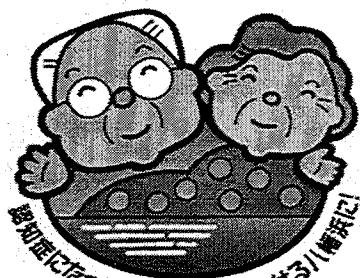
周南地域（山口県）



越前市（福井県）

もの忘れ相談医
越前市・武生医師会

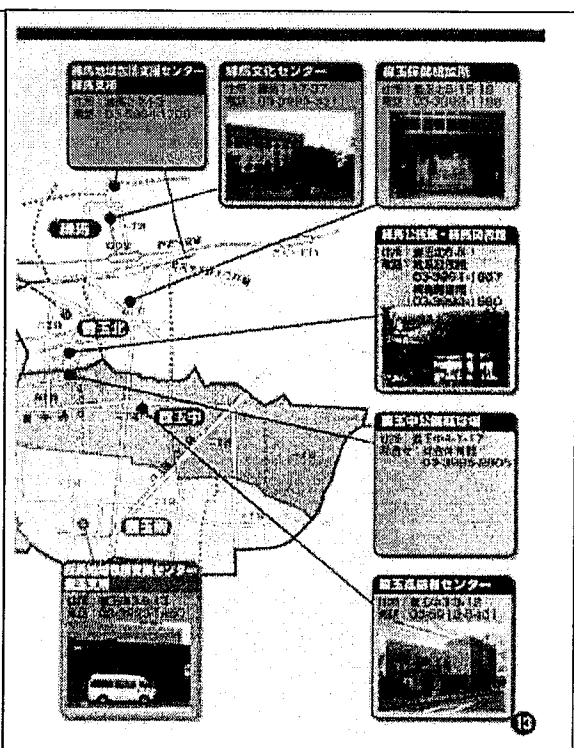
八幡浜市（愛媛県）



伊予市（愛媛県）

◆地域資源マップ

練馬区(東京都)



◆徘徊SOSネットワーク

河内長野市(大阪府)



河内長野市徘徊高齢者SOSネットワーク

捜しています！

徘徊の経路	徘徊の時間	徘徊の場所	徘徊の状況
住所	氏名	年齢	性別
連絡先	電話番号	メールアドレス	その他

心療内科の先生へ
河内長野市徘徊高齢者SOSネットワーク(0721-54-1234)
までご連絡をお願いします。

※このネットワークは、河内長野市徘徊高齢者SOSネットワーク事務局(河内長野市役所生活安全課)が中心となり、市内の徘徊高齢者を捜すためのネットワークです。

河内長野市徘徊高齢者SOSネットワーク

このネットワークは、市内に居住する徘徊高齢者を地域の手で捜すことで、徘徊高齢者の安全とご家族の安心をサポートするものです。

利用方法

ご家族等の高齢者が徘徊されたとき、警察への連絡とともに、河内長野市徘徊高齢者SOSネットワーク(河内長野市役所生活安全課)へご連絡ください。
ご家族に徘徊された高齢者の写真と徘徊者の名前をお聞かせください。
必要に応じて、河内長野市役所生活安全課(電車・バス・タクシー・オートバイなど)、協力員(徘徊高齢者の近所の人)にチラシやパンフレットを配布します。

事前登録

ご家族等の高齢者が徘徊されたとき、事前に登録していただくことで、捜すことが容易になります。
ご家族に徘徊された高齢者の写真と徘徊者の名前をお聞かせください。
この登録情報は、河内長野市徘徊高齢者SOSネットワーク事務局に保存されます。

夜間・休日などの対応

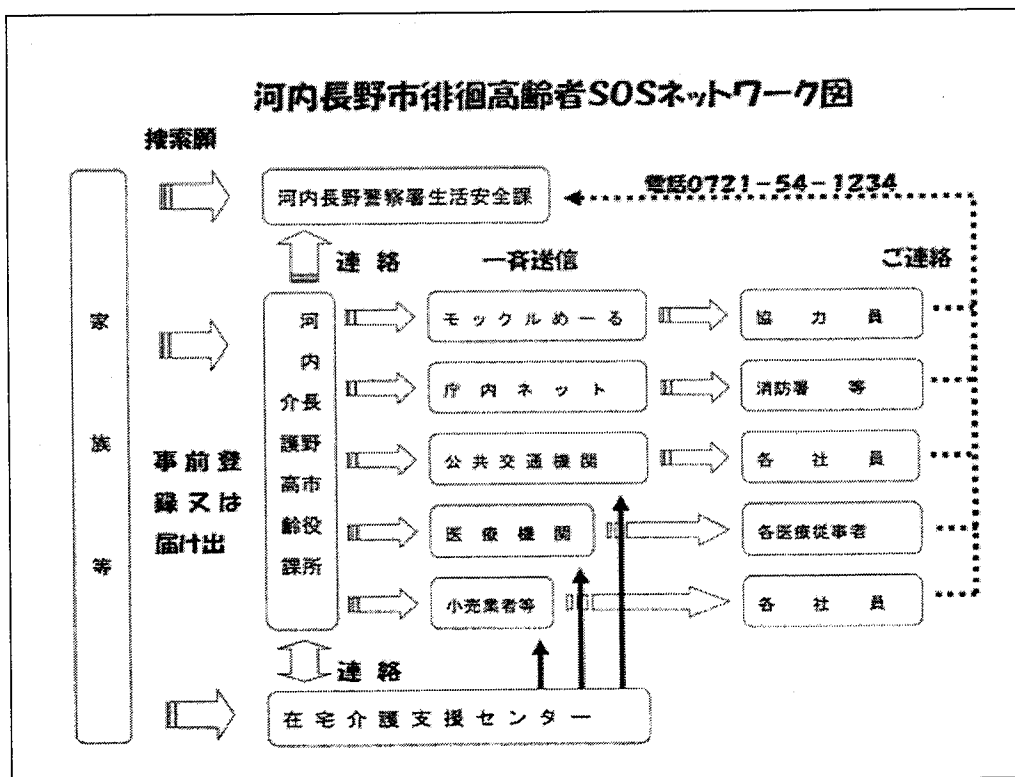
午後7時から翌朝5時までの間、出・夜間、休日、年末年始(12月31日～翌1月4日)は、有宅介護支援センターが対応となります。

在宅介護支援センター

有宅介護支援センターとは、介護に関する相談や福祉サービスの手配、転居などのサポートをしている機関で、市内には2箇所あります。17ページ参照。

お問い合わせ

河内長野市徘徊高齢者SOSネットワーク事務局
〒591-8501 河内長野市役所生活安全課
電話 0721-54-1234

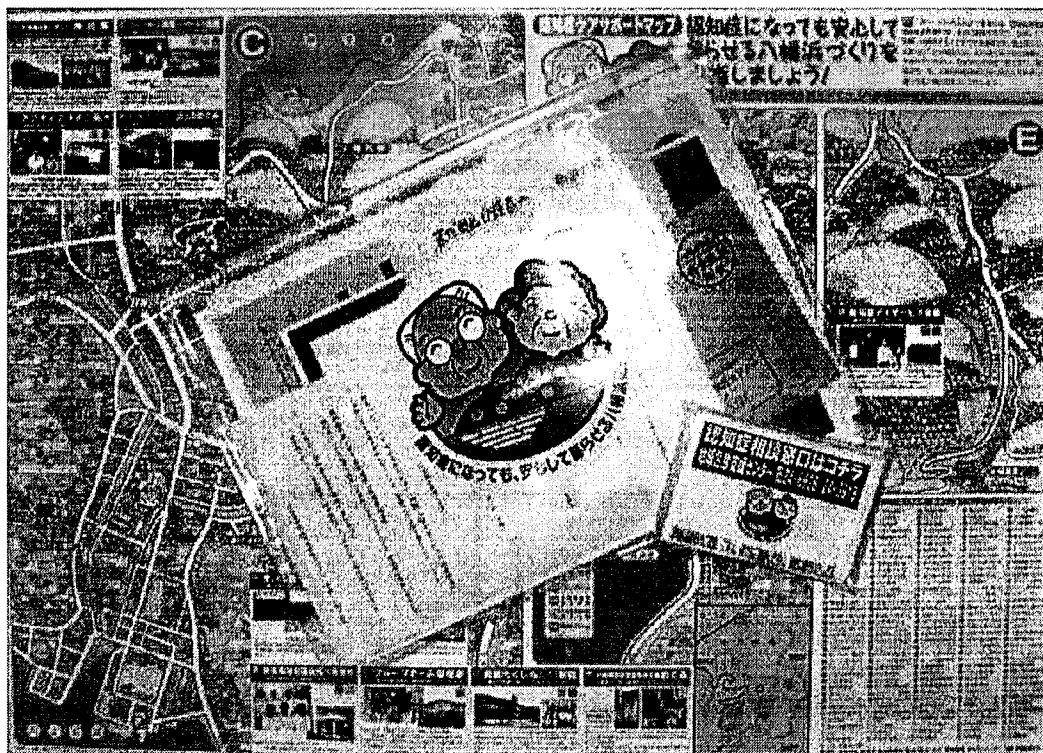


徘徊SOSネットワーク登録者への 情報提供を兼ねたプレゼントセット

認知症に負けないためのグッズ

- 一、「認知症サポート区」からのメッセージ
→ 認知症何でも相談室の開催予定もお知らせします。お資料にご相談ください。
- 一、「介護家族教室」参加者からのメッセージ
→ 介護家族教室のお誘いです。毎月第三火曜日に開催します。
- 一、まだ見ぬ介護者へ(和田行男・作)
→ 認知症の身近な人の姿を聞いてみましょう。
- 一、位置確認装置(GPS) パンフレット
→ コッセコムからパソコン、ケータイで高齢者の行方をチェックできます。
- 一、認知症ケアサポートマップ
→ 市内の協力者が掲載されています。
- 一、徘徊ネームプレート
→ かばんやポケットに入れるタイプ(5個) 衣服に貼るタイプ(5個)
→ 取扱説明書同封。備えあれば憂いなし。
- 一、認知症の症状別説明
→ 人物挿絵・イラスト・写真をとて症状別に説明します。
- 一、絵本「いつだって心はまわっている」(抜粋)「僕のおじいさんは冒険家」
→ 徘徊をする元祖おじいさんのおじいさん。お孫さんにはどう見えたのでしょうか。
- 一、認知症サポーター養成講座「愛媛中絶言」
→ 認知症について地域の住民にも理解してもらいましょう。開催時間は第一時間です。
- 一、チラシ「認知症を学び地域で支えよう」
→ 認知症サポーター養成講座の標準教材です。今からぜひ配布はお問合せください。

八幡浜市地域包括支援センター 電話 二四一三九一八



◆ともに動き出した人々

推進会議(飯綱町・長野県)
住民の力を結集



宇治市(京都府)
市と一体となって活躍した
コーディネーター



認知症セミナー(京都府)
報告会を兼ねた府全域の研修



報告会(福井県)
モデル地域の報告をもとに市町単位で
21年度からの計画づくりをスタート



センター方式地域セミナー(佐伯市・大分県)
県、市の行政職と包括職員が一体となって



平成 20 年度老人保健健康増進等事業報告書
自治体における認知症地域支援体制構築の効果的な推進に関する開発研究事業
報告書

発行元 社会福祉法人 浴風会
認知症介護研究・研修東京センター
〒168-0071
東京都杉並区高井戸西 1-12-1
電話 03-3334-2173

発 行 平成 21 年 3 月